

大阪市立
光陽
特別支援学校

タイトル(テーマ)
本校・分教室・訪問教育の交流授業
遠隔地の教室をインターネット回線につなぐ

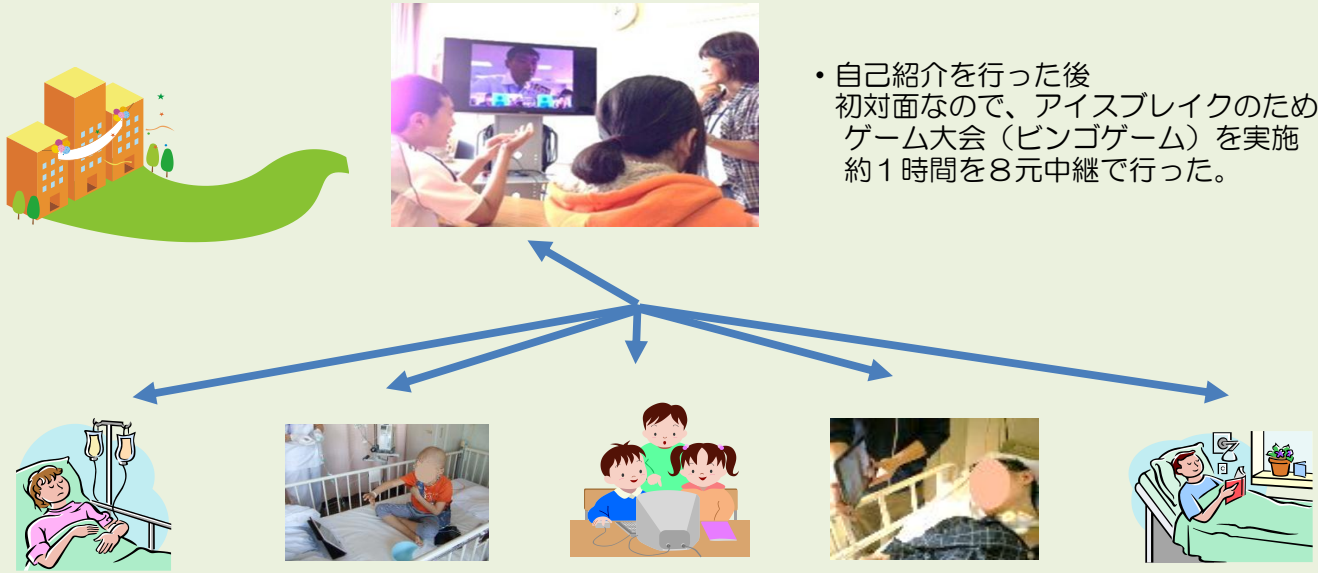
光陽 No 5 号
平成
26 年 10 月 9 日

対象の児童生徒
病弱部 小・中学 部 全学 年

困り感
・病気等で入院している児童生徒は、原籍校の友人と離れ、孤独感を持つことが多い
・各病院間の距離があるため、同じ光陽特別支援学校の児童生徒であるという意識が薄い

取り組みの内容・授業の様子等

- ・生きる意欲を持たせ、治療や学習に前向きに向かわせるために、同じように病気で入院している児童生徒と交流して、連帯感を高める。
- ・ハードウェア PCやタブレット、W i f i
ソフトウェア Googleハングアウト(複数のPCやタブレットで無料グループ通話が可能)



- ・自己紹介を行った後初対面なので、アイスブレイクのためにゲーム大会(ビンゴゲーム)を実施約1時間を8元中継で行った。

成果と今後の課題
【成果】 自己紹介やゲームが盛り上がり、特に個々に病院に入院している児童(訪問教育)は「もっと、やりたかった」と感想を述べた。
【課題】 病院内での通信がうまくいかないところがあった。
W i f i の数が足りずに、教師個人のモバイルルーターを使った場所もあった。